



旧国鉄や「坊ちゃん列車」のSLから想像の金シャチ号まで、
作者や子どもの笑顔に乗せて模型機関車が走る



中部地方唯一？ 自前の線路を持つ「衣浦鉄道倶楽部」

子どもの頃は東海道線の笠寺貨物駅、高校時代は稲沢操車場や中央線の貨物駅で葉服の鉄道員が蒸気機関車やディーゼル車を背景にキャッチボールをしていたのを思い出す。それは人も時間もたっぷり余裕のあった国鉄時代のお話だが、民営化の合理化の中で、陸でも空でも職人気質や仲間意識などと一緒に公共交通の安全神話も過去のものになった。さて、鉄道模型のクラブは鉄道員出身者こそ皆無だったが、職人気質も仲間意識も安全確保もいたって健全。仕事ではちよっと見られない、いい顔をしたおじさんたちが喜々として子どもたちを自慢の機関車に乗らせていた。

さまざまな形の
手作り機関車に
毎回四、五百人の
子ども連れが乗車

衣浦鉄道クラブは会員約三十人。八年前に愛知県碧南市の明石公園内に自分たちで幅五インチと三・五インチ、総延長約三百メートルの線路を敷き、毎週第三日曜日に運転の例会を開いてきた。自前の線路を持つ鉄道模型のクラブは全国にも少なく、中部地方ではおそらく唯一。会員は富山、岐阜、静岡県や大阪府などから自慢の機関車を持って集まる。大阪府から来ているという二十代の会員は、線路を持つパブリックなクラブがほかにないこと以外に「縮尺モデルにこだわらず自由な形を幅広く受け入れ、みんなで知恵や技術を出して助けてくれるから十代から七十代まで幅広い」といい、



◎Information

「衣浦鉄道倶楽部」

愛知県碧南市明石公園内で活動

2月18日・3月18日

※さよなら運行 (AM10～PM3)

<http://www.geocities.jp/kinuuratetudoukurabu/index.html>

「依佐美鉄道倶楽部」

愛知県刈谷市依佐美公園内で活動

4月1日から毎月第1日曜日に運行

中高年にありがちな偏狭なうんちくを振り回す同好会とは一線を画す。また、設立以来、例会は一般に無料開放し、毎回四、五百人の子ども連れがさまざまな機関車の乗りごちを楽しんできた。杉浦代表は「子どもと来たのがきっかけで入会する人がいるのが一番うれしい」と話す。

市の大型遊具設置計画で やむなく 新たな線路用地を検討

柔軟に同好の仲間を受け入れ、市民と楽しさを共有してきた俱



縮尺などにとらわれず自由で楽しい活動だからこそ年齢も幅広いと話す杉浦良英代表

楽部だが、この三月の例会でひとまず幕を閉じる。碧南市が線路のある明石公園の敷地にジェットコースターなどの大型遊具を作るというのだ。もともと敷地の利用が決まったら明け渡すことを取り決めての発足だったが、子どもたちが手軽に無料で楽しめる明石公園の名物施設として知られる存在になっていただけに残念だ。線路跡が子ども相手に有料も予想される大型遊具を莫大な予算を掛けて設置する計画に利用されるのにも悔しさがにじむ。ただ、拾う神ありのたとえ通り、隣の刈谷市が米軍依佐美アンテナ基地跡に作る公園内に五インチ幅、約二百七十メートルの線路を敷くことになった。衣浦の会員の多くが参加して新たに依佐美鉄道倶楽部を設立し、市の運行とは別に四月一日から毎月第一日曜日に例会を開く。また、衣浦鉄道倶楽部も数カ所の候補地を検討中だ。全国の鉄道模型クラブのお手本ともいえる二つの会の活躍を祈りたい。



SLは本物さながらに油の染みた薪で火をおこし石炭をくべる。蒸気圧を安定させるのが難しく、一日の運行数も限られるが、そこが格別の楽しさという